

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】福祉(介護福祉コース)・介護総合演習		単位数	2	単位	履修年次	2	年
目 標	・学習を通して、専門的な知識と技術の深化と総合化を図る。 ・介護実習に主体的に取り組む態度を身につける。 ・介護実習における自己の課題を明確にし、課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身につける。							
使用教材	【副教材】自作教材（プリントなど）							
評価の観点 ・評価規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	介護サービスの種類と介護の内容、介護実習の目的や介護従事者としての役割を理解している。 介護実習における記録を適切に取り、自分の学習内容を振り返り、適切に報告することができる。 介護実習において課題の解決を目指すことができる。		介護実習を振り返り、介護実習における課題の解決を目指して自ら考え、適切に判断・表現することができる。		介護現場に対して関心を持ち、意欲的に実習準備に取り組むと共に、実習後の課題解決に積極的に取り組もうとする態度を身につけている。			
評価方法	目標を踏まえ、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を授業の取組み、提出物の状況から評価を行う。介護実習の報告についても、評価する。また、「介護実習」の授業と連携しコメント、日誌等をもとに総合的に判断し評価する。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	介護実習 ・介護実習における事前学習			・介護実習の意義、目的を学ぶ。 ・伊賀管内の介護サービスの状況を学ぶ。 ・介護実習における諸注意を確認する。 ・介護実習で学ぶべきこと、また課題の見つけ方について学ぶ。				
2 学期	事例研究 介護実習 ・介護実習における事後学習 ・介護実習における事前学習			・介護実習を、振り返りを行う。 ・介護実を振り返り自己の課題を見つける。 ・自己の課題解決に向けて取り組みを行う ・次の介護実習で学ぶべきこと、また課題の見つけ方について学ぶ。				
3 学期	介護実習 ・介護実習における事後学習			・介護実習を、振り返りを行う。 ・介護実習を振り返り自己の課題を見つける。 ・自己の課題解決に向けて取り組みを行う。 ・介護実習全体を振り返り、3年次の実習の目標を設定する。				
学 習 上 の 留 意 点	・介護実習の授業と連動しています。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(生活福祉コース)・介護総合演習		単位数	3	単位	履修年次	2	年
目 標	・エプロンシアターや絵本の作成を通して、専門的な知識と技術の深化と総合化を図る。 ・主体的に取り組む態度を身につける。 ・作成課題を明確にし、課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身につける。							
使用教材	なし							
評価の観点 ・評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	基礎的な制作技術や発表技術を身につけている。 今後の子ども福祉・幼児教育を担う役割を理解している。	制作を通して、子ども福祉・幼児教育における課題の解決を目指すことを自ら考えている。 制作の中から、子どもの興味・関心を引き出し、表現することができる。	子ども福祉・幼児教育に対して関心を持ち、創意工夫に根差した態度を持って、積極的に取り組もうとしている。					
評価方法	目標を踏まえ、実習に取り組む「主体的に学習に取り組む態度」「知識・技術」「思考・判断・表現」については、授業と作成物の状況から評価を行います。							
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い					
1 学期	・エプロンシアターの作成		・物語を作り、物語に必要なパーツを下書きし、色を塗り完成させる ・物語の道筋を考える力を身につける。					
2 学期	・絵本の作成 ・エプロンシアターの発表 (校内・保育所) ・絵本の発表		・自ら発表の課題をみつけ、発表課題解決の道筋を考える力を身につける。 ・自分の考えをまとめ、発表できる力を身につける。 ・子どもの心情を考え、制作技術を身につける ・発表することにより、相手に伝える力を身につける					
3 学期	・展示物の作成		・制作技術を向上させ、制作意欲を高める					
学 習 上 の 留 意 点	・子どもへの関心を向けた制作活動です。創意と工夫を持って取り組みましょう。 ・創作活動を通して、子どもたちへの理解を深め、興味・関心を引き出していきましょう。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(生活福祉コース)・生活支援技術		単位数	2	単位	履修年次	2	年
目 標	福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、適切で安全・安楽な生活支援技術を提供するために必要な資質・能力を身につける。 自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。							
使 用 教 材	【副教材】生活支援技術							
評価の観点 ・評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	自立に向けた生活支援に必要な資質・能力をサービス利用者主体の生活と関連させながら体系的・系統的に理解するとともに、実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術を身に付けている。	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を、論述やレポート作成、グループでの活動等を通して身に付けている。	学習に対して強い関心を持ち、よりよく学ぼうとする意欲を持って取り組んでいる。					
評 価 方 法	目標を踏まえ、生活支援技術に対する「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」について評価の観点・評価基準を基に授業を中心に評価を行う。具体的には、日々の授業、提出物、レポート作成、実技試験、定期考査等をもとに総合的に判断し評価する。							
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い					
1 学期	私たちの暮らしと生活支援 ・生活支援の理解 ・生活支援に向けたアセスメント		・生活とは何か、その定義について理解した上で要介護者や家族の生活を重視した介護のあり方を考察する。 ・介護過程の中でアセスメントが持つ意義、役割について理解し、利用者およびその家族が抱えるニーズの把握に向けた関わりを考察する。					
2 学期	自立に向けた生活支援技術 ・移動の介護 ・睡眠の介護 ・家事の介護		・移動の介護に関する意義、目的を理解し、その人の自立生活を目指す上で ICF の視点を活かした望ましい支援のあり方を考察する。 ・介護に必要なボディメカニクスの理論から体位変換、車いすの介助、歩行介助、福祉用具を学ぶことで移動・移乗に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・安眠のための環境作りができるようになる。 ・睡眠の介護に関する基礎的な知識と技術を身につける。 ・睡眠が身体に及ぼす影響を学習する。 ・家事の介護の関する意義、目的を理解し、科目「家庭総合」との学習と関連させて望ましい支援のあり方を考察する。					
3 学期	自立に向けた生活支援技術 ・居住環境の整備 ・身じたくの介護		・住環境の整備の意義、目的並びにバリアフリーやユニバーサルデザインの考えに基づいた居住環境について理解し、ICF の視点を活かした望ましい支援のあり方を考察する。 移動の介護に関する意義、目的を理解し、その人の自立生活を目指す上で ICF の視点を活かした望ましい支援のあり方を考察する。 ・身じたくの介護に関する意義、目的を理解し、その人らしさの表現とともに ICF の視点を活かした望ましい介護のあり方を考える。 ・利用者の心身の状態、および生活の状況に応じた整容、口腔ケア、衣類の着脱を学ぶことで身じたくの介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。					

学 習 上 の
留 意 点

- ・実技練習も実施されるため、指定のシューズが必要です。
- ・メンバー同士で協力し合える関係作りをしていきましょう。
- ・授業外の自主練習にも積極的に参加し、必要な技術を身につけましょう。

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】福祉(介護福祉コース)・介護福祉基礎		単位数	3	単位	履修年次	2	年
目 標	・介護を必要としている人の自立支援、尊厳の保持など、介護の意義と役割を理解する。 ・介護を適切に行う能力を身につける。							
使用教材	【教科書】 介護福祉基礎 （実教出版）							
評価の観点 ・評価規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	多様な生活のあり方を理解し、尊厳の保持や自立支援を行う上での介護従事者の意義や役割を理解できている。 介護保険制度や障害者総合支援法によるサービス内容を理解することができている。 介護現場における感染について具体的な予防方法を理解している。		介護福祉士の倫理綱領を理解し、専門職としてふさわしい判断ができている。 介護事故予防の重要性を理解し、視野を広く持ち客観的な判断ができている。 多様な生活のあり方を理解し、尊厳や自立支援について自身の考えを述べるができている。 利用者の気持ちを読みとり、専門職としてふさわしい表現ができている。		介護に対して関心を持ち、意欲的に授業を受ける態度である。 介護保険サービス・障害者サービスへ関心を持ち、主体的に学ぼうとしている。			
評価方法	目標を踏まえ、「知識・技能」と「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」については、日々の授業を中心に評価を行います。「知識・技能」については試験をもとに評価します。具体的には、日々の授業態度、提出物、考査等をもとに、総合的に判断し評価します。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	介護の意義と役割 ・尊厳を支える介護 ・自立に向けた支援			・介護の意義、役割について学習し、尊厳を支える介護を学習する。 ・自立を支援するとはどういったことなのかを学習する。				
2 学期	介護福祉の担い手 ・介護従事者をとりまく状況 ・介護従事者の役割と介護福祉士 ・介護従事者の倫理 ・介護実践における連携			・介護福祉士の資格の歴史についてふれる。さらに介護福祉士の資格の取得方法や人材確保のための法律や対策について学習する。 ・介護の役割を取り上げ、介護福祉士が主に働く場での役割を学習する。				
3 学期	介護を必要とする人の理解と支援 ・介護を必要とする人と生活環境 ・高齢者の生活と支援 ・障害者の生活と支援 ・介護を必要とする人の生活を支える支援 ・介護福祉サービスの概要 ・介護過程			・生活歴を知ることが支援に必要であることを学習する。 ・一人ひとり状況が違う事を学学習する。また一人ひとりの生活の違いを理解し、状況に合わせた介護が必要であることを学習する。				
学習上の留意点	介護に関する基本的な知識を学びますので、しっかりと学習し理解しましょう。 介護従事者の健康管理も大切になってきます。理解しておきましょう。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】福祉(ヒューマンサービス科)・福祉情報		単位数 2 単位	履修年次 2 年
目 標	・ 情報及び福祉分野における情報の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ・ 情報及び福祉分野における情報の活用に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ・ 表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェア、情報通信ネットワークなどを活用した福祉情報の処理ができる。			
使 用 教 材	【副教材】福祉情報活用			
評価の観点 ・ 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	福祉における情報活用の意義と役割を理解するとともに、それを実践するための知識を身につける。福祉情報に関する基礎知識ならびにコンピュータのハードウェア、ソフトウェアやアプリケーションソフトウェアの活用に関する基礎的な知識を身につけている。	情報を福祉に活用するために、目的に応じた機器やソフトウェアを選択して利用し、情報を活用しやすい形に加工する工夫を行うとともに、情報モラルを踏まえた適切な判断ができる。 表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを用いた情報の整理や加工、情報通信ネットワークを活用した情報の収集・発信などの基礎的な技能を身につけ、福祉情報の活用ができる。	福祉における情報の活用に関心を持ち、福祉の諸活動において情報を主体的に活用しようとする。 福祉情報の収集、整理・加工、伝達に情報技術を活用するための知識・技術を積極的に身につけようとしている。	
評 価 方 法	目標を踏まえ、福祉情報に対する「主体的に学習に取り組む態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「知識・技術」および「思考・判断・表現」は、定期考査または小テスト、調べ学習を中心に評価を行う。			
学 期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い		
1 学期	情報社会と福祉サービス 情報モラルとセキュリティ管理	・福祉の諸活動における情報の役割とコンピュータを利用した福祉情報活用の重要性を学習する。 サービス・情報化社会に参画するために個人が身につけるべき情報モラルや、セキュリティ管理の方法について学習する。		
2 学期	福祉分野における情報活用 情報の処理・分析・発信	・情報通信ネットワークの概要と、福祉情報におけるインターネットの様々な利用方法やその効果について学習する。 ・表計算ソフトウェアの特徴を理解し、基本操作を習得します。関数を用いた技法、グラフ作成の基礎知識を学習する。		
3 学期	アルゴリズムとプログラム 情報の処理・分析・発信	・アルゴリズムの基本構造とプログラムの基礎を学習する。 ・表計算ソフトウェアを利用して帳票や報告書などのビジネス書類を作成するための技法を学習する。 ・データベースの特徴とこれを福祉情報に活用することの意義を理解する。		
学 習 上 の 留 意 点	・ 正確かつスピーディーにタイピングできることが基本となります。授業外でも積極的にタイピング練習をしましょう。 ・ ビジネス文書実務検定にも対応できるように検定前には検定対策の学習もします。			

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	家庭・保育基礎		単位数	3 単位	履修年次	2 年
目 標	保育の意義や方法、子どもの発達と生活の特徴、子どもの福祉や文化について理解し、関連する技術を身に付けるとともに、子どもの発達に適した保育環境を整えることの重要性について思考を深め、地域の保育や子育て支援に寄与できる資質・能力を育成する。					
使 用 教 材	【教科書】保育基礎（実教出版）					
評価の観点・評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化などについて、体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付けることができる。	子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
評 価 方 法	目標を踏まえ、「主体的に学習に取り組む態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断・表現」「知識・技術」は、定期考査やレポート、作品を中心に評価を行い、総合的に判断し評価します。					
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			
1 学期	○子どもの保育 ・保育の意義と目標 ・保育の方法と環境 ○子どもの発達 ・子どもの発達と特性 ・子どものからだの発達 ・子どもの心の発達 ◆保育検定4級に関する内容 （言語表現技術、造形表現技術、音楽リズム表現、家庭看護技術）		・乳幼児期は人が生涯にわたる生きる力の基礎を培う時期であり、子どもが主体的に環境にかかわることが重要であることを理解する。また、社会的な背景とかわらせ発達観・児童観の変遷の概要についても理解する。 ・子どもの発達を促すための保育の必要性和意義を理解し、基本的な保育技術を身に付ける。 ◆子育て支援に必要な基礎的知識・技術を定着させ、実践的な態度を身に付ける。			
2 学期	○子どもの生活 ・子どもの生活と養護 ・生活習慣の形成 ・健康権利と事故防止 ○子どもの文化 ・子どもの文化と支える場 ・子どもの遊びと表現活動 ◆保育検定3級に関する内容 （言語表現技術、造形表現技術、音楽リズム表現、家庭看護技術） ◇手芸実習 ・名札 布のおもちゃ 等		・乳幼児の生活の特徴と適切な養護のあり方について理解する。 ・子どもの生活様式全体を理解し、子ども文化を支える社会について考える。 ◆子育て支援に必要な基礎的知識・技術を定着させ、実践的な態度を身に付ける。 ◇保育に関するもの作りをする上で必要な基礎的技術を身に付ける。			
3 学期	○子どもの福祉 ・子ども観 ・子どもの福祉 ・子育て支援		・児童福祉の理念や関係法規と制度について理解するとともに、近年の子育て支援の考え方と施策について理解する。			
学 習 上 の 留 意 点	実習は準備から片付けまで積極的に参加してください。					

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(介護福祉コース)・介護福祉基礎		単位数	2	単位	履修年次	3	年
目 標	・介護を必要としている人の自立支援、尊厳の保持など、介護の意義と役割を理解する。 ・介護を適切に行う能力を身につける。							
使用教材	【副教材】介護福祉基礎（実教出版）							
評価の観点 ・評価規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	多様な生活のあり方を理解し、尊厳の保持や自立支援を行う上での介護従事者の意義や役割を理解できている。 介護保険制度や障害者総合支援法によるサービス内容を理解することができている。 介護現場における感染について具体的な予防方法を理解している。		介護福祉士の倫理綱領を理解し、専門職としてふさわしい判断ができている。 介護事故予防の重要性を理解し、視野を広く持ち客観的な判断ができている。 多様な生活のあり方を理解し、尊厳や自立支援について自身の考えを述べるができている。 利用者の気持ちを読みとり、専門職としてふさわしい表現ができている。		介護に対して関心を持ち、意欲的に授業を受ける態度である。 介護保険サービス・障害者サービスへ関心を持ち、主体的に学ぼうとしている。			
評価方法	目標を踏まえ、「知識・技能」と「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」については、日々の授業を中心に評価を行います。「知識・技能」については試験をもとに評価します。具体的には、日々の授業態度、提出物、考査等をもとに、総合的に判断し評価します。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	介護を必要とする人の理解と支援 ・介護福祉サービスの概要 ・介護過程			・介護保険制度や障害者自立支援制度などにおけるサービスを取り上げ、サービス内容や利用方法について学習する。 ・介護過程を実践する意義を理解し、計画の立案・実施・評価について学習する。				
2 学期	介護における安全確保と危機管理 ・介護における安全と事故対策 ・介護従事者の健康管理 ・感染対策			・介護実践における安全確保と事故防止について学習する。 ・介護サービスを提供するためには、介護者の心身が重要であることを学習する。 ・介護現場における感染症の実態を取り上げ感染予防の意義と必要性について学習する。				
3 学期	介護における安全確保と危機管理 ・祉用用具と介護ロボットの必要性 ・福祉用具と介護ロボットの有効な活用			・福祉用具と介護ロボットの必要性について学習する。 ・福祉用具と介護ロボットの有効的な活用について学習する。				
学習上の留意点	介護に関する基本的な知識を学びますので、しっかりと学習し理解しましょう。 介護従事者の健康管理も大切になってきます。理解しておきましょう。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(生活福祉コース)・こころとからだの理解		単位数	4	単位	履修年次	3	年
目標	・ 自立生活を支援するために必要なこころとからだの基礎的な知識を身につけ、介護実践に適切に活用できる能力を身につける。							
使用教材	【副教材】こころとからだの理解（実教出版）							
評価の観点 ・ 評価基準	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	・ 生活支援を行う上でのこころとからだの基礎的な知識を理解できている。 ・ 利用者の生活行動についての理解ができている。 ・ 介護技術の根拠となるこころとからだとの関連や人体構造機能について理解できている。	・ こころとからだの理解をふまえた生活支援を行う判断が自らできる。 ・ 利用者の多様な生活を理解し、自立支援を考えるにあたり、適切な表現方法ができる。		・ 介護に必要とされるこころとからだの基礎的な知識について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。 ・ こころとからだの基礎的な知識を理解し、利用者のこころをふまえた介護の考えを持てたか。				
評価方法	目標をふまえ、「主体的に学習に取り組む態度」と「思考・判断・表現」、については、日々の授業を中心に評価を行います。「知識・技能」については試験をもとに評価します。具体的には、日々の授業態度、提出物、考査等をもとに総合的に判断し評価します。							
学期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い					
1 学期	こころとからだの基礎的理解 ・ こころの理解		・ 健康や人間の欲求とはなにかを考える。 ・ こころとは何かを考え、「学習」「記憶」「思考」「感情」「認知」「意欲」「動機」「適応」について学び、生活支援技術で必要な知識を身につける。 ・ 骨の動き、筋肉の動き、神経の働きを理解し、加齢によっておこる機能低下について理解をする。					
2 学期	・ からだのしくみの理解 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 ・ 生活動作に関するこころとからだのしくみ ・ 生活場面の变化に関するこころとからだのしくみ		・ なぜ、身じたくを整えるのか考え、それに関わるこころのしくみやからだのしくみを理解する。 ・ 感染症、終末期、緊急時の心身の状態を理解する。					
3 学期	発達と老化の理解 ・ 人間の成長と発達 ・ 老年期の理解と日常生活 ・ 高齢者と健康		・ 人間の発達について理解し、それぞれの段階における課題を学習する。 ・ 老年期とは何かを考え、加齢に伴う心身の変化を学習する。 ・ 高齢者の健康について考え、健康の維持・増進について学習する。					
	認知症の理解 ・ 認知症をとりまく状況 ・ 認知症の基礎的理解 ・ 認知症に伴う心身の変化と日常生活		・ 認知症の歴史と現在について学習する。今後の施策について学習する。 ・ 認知症の症状や診断方法について学習する。認知症の主な病気の特徴や治療等について学習する。					
学習上の留意点	障害の理解 ・ 障害の基礎的理解 ・ 生活機能障害の理解 ・ 障害に伴う心身の変化と日常生活		・ 障害の概念について学習する。 ・ 様々な障害について理解し、支援に必要な知識を学習する。 ・ 障害のある人への支援について学習する。					

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(介護福祉コース)・コミュニケーション技術		単位数 2 単位	履修年次 3 年
目 標	・介護におけるコミュニケーションに関する知識と技術を習得する。 ・介護福祉援助活動に活用する能力と態度を養う。			
使 用 教 材	【副教材】コミュニケーション技術(実教出版)			
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	コミュニケーションの基本である傾聴・共感・受容の態度で対話ができる。介護福祉援助活動は信頼関係の構築を基盤とし、法や制度を適用した社会生活を総合的に援助する活動であることを理解できる。	自分の考えを適切に表現することができる。日常生活や介護実習等を振り返り、コミュニケーションの技法や人との関係作りについて考えることができる。	対人関係に関する援助やコミュニケーションに興味を持ち、授業に意欲的に取り組んでいる。	
評 価 方 法	目標を踏まえ、コミュニケーション技術に対する「主体的に取り組む態度」と「思考力・判断力・表現力」については、日々の授業を中心に評価を行います。「知識・技能」については試験をもとに評価します。具体的には、日々の授業、提出物、考査等をもとに総合的に判断し評価します。			
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い	
1学期	介護におけるコミュニケーション ・コミュニケーションの意義と役割 ・コミュニケーションの基本技術 ・援助の技法とコミュニケーション		・コミュニケーションの意義と役割を理解し、人間関係の形成や他者理解、自己理解について学習する。 ・傾聴や受容、共感など、コミュニケーションの基本技術について学習する。 ・個別的な援助、集団的な援助の概要について学習する。	
2学期	サービス利用者や家族とのコミュニケーション ・サービス利用者や家族との関係づくり ・サービス利用者に応じたコミュニケーション (高齢者・視覚障害者・聴覚障害者・言語障害者・運動機能障害者・知的障害者・認知症の人)		・利用者や家族との関係づくりについて学習する。 ・手話や点字をはじめ、利用者の状態に応じたコミュニケーション技法を学習する。	
3学期	介護におけるチームのコミュニケーション ・記録 ・チームによる連携 ・スーパービジョンの技法		・記録の意義や目的、活用などを学習する。 ・情報共有の必要性や他職種との関わりについて学習する。 ・スーパービジョンの必要性や面接方法について学習する。	
学 習 上 の 留 意 点	・対人援助の基本である援助技術・コミュニケーションなどに関する知識と技術を学び、実践力を身に付けます。授業には常に意欲的に取り組みましょう。 ・普段の自分自身のコミュニケーションを振り返り、学習に取り組みましょう。			

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉（介護福祉コース）・介護過程		単位数	2	単位	履修年次	3	年
目 標	・人間としての尊厳の保持と自立支援の観点を養う。 ・介護過程の意義と役割を理解する。 ・介護過程を展開する能力を養う。							
使用教材	【副教材】介護過程（実教出版）							
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度					
	介護過程の実践をする意義と役割を理解できている。 今まで学習した他教科の知識を活用できている。	課題について、アセスメント、計画、目標について考えることができている。 自らの考えを提案し、適切な表現方法ができている。	利用者の課題を見つけ、課題解決へむけての取り組む態度が身についている。 事例への興味を持ち、授業に意欲的に取り組んでいる。					
評価方法	「主体的に取り組む態度」と「思考力・判断力・表現力」については日々の授業を中心に評価する。 具体的には、授業態度や課題、レポートの取り組み状況、提出物にて判断する。 「知識・技術」については、アセスメントシート作成を評価する。 具体的には、事例研究、アセスメントシート作成、発表にて判断する。							
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い					
1 学期	介護過程の展開 ・介護計画の立案 ・介護計画の実施と評価		情報収集とアセスメントについて事例を通して学習する。 生活課題と目標設定ついて事例を通して学習する。 介護計画の立案と実施について事例を通して学習する。					
2 学期	介護過程の実践的展開 ・介護過程の展開 介護支援専門員からの講話		ICFの考え方にに基づき、介護実習にて介護過程を展開を行う。					
3 学期	介護過程とチームアプローチ ・介護過程とチームアプローチの意義 ・介護過程とチームアプローチの実際		チームアプローチが持つ意義について学習する。 他職種連携とケースカンファレンスの機能について学習する。 施設介護と在宅介護におけるチームアプローチの事例検討をする。					
学習上の留意点	介護過程は、介護を必要とする人の全体像を捉え、その人らしい生活を実現するためにどのような介護が必要なのかを考えます。そして目的に沿ったプロセスを経て介護計画を作成し、専門職として生活課題を解決するための思考過程です。事例に基づいて、それから介護実習のなかで介護過程の展開の方法を学習しましょう。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(介護福祉コース)・介護実習		単位数	8	単位	履修年次	3	年
目 標	・様々な介護の場において、学校で学んだ知識と技術を統合し、介護技術の実践能力、介護過程の実践能力、他職種協働について理解し、技術を身に付ける。							
使 用 教 材	介護実習の手引き							
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	利用者の生活と介護の意義や役割を理解することができている。 利用者一人ひとりを理解し、その人にあったコミュニケーション、介護の実践ができている。	利用者一人ひとりを理解し、その人にあったコミュニケーション、介護をどうしたらよいのか考えることができる。 状況を適切に判断して行動できている。	介護現場に対して関心を持ち、意欲的に実習に取り組む態度であるか。取り組んでいる。 介護技術を習得し、自ら判断して適切な介護を行うことができている。					
評 価 方 法	目標を踏まえ、実習に取り組む「知識・技能」と「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」については、介護実習の状況から評価を行います。評価については、介護実習施設よりの指導者からのコメント、実習日誌等をもとに、総合的に判断し評価します。「介護総合演習」「介護過程」の授業の授業内容とも連携して評価をします。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
通 年	個別ケアのための継続した実習 ・ 個別的な介護技術の実践 ・ 介護課程の実践 ※別途介護実習計画を配布します。 実習計画に基づき実施します。 ※Ⅳ期 介護実習 Ⅴ期 介護実習 Ⅵ期 介護実習 合計 35 日			個別ケアの介護実習を行う。 介護過程の展開を行うための実習を行う。 アセスメント、介護計画立案を、「介護過程」の授業と連動し行う。				
学 習 上 の 留 意 点	・ 通年になります。毎週 1 日計 35 日、介護実習に行きます。 ・ 校外実習となり、実習施設に行きます。身だしなみ、マナーは特に気をつけましょう。 ・ どのような人でも快く介護ができる優しい心を育てていきましょう。 ・ 35 日の介護実習をこなすため、夏休み前半に実習があります。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】福祉(介護福祉コース)・介護総合演習		単位数	1	単位	履修年次	3	年
目 標	・介護実習や事例研究などの学習を通して、専門的な知識と技術の深化と総合化を図る。 ・介護実習に主体的に取り組む態度を身につける。 ・介護実習における自己の課題を明確にし、課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身につける。							
使 用 教 材	【副教材】自作教材（プリントなど）							
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	介護実習の意義やあり方、臨 護に対する知識や技術、介護 過程の展開を理解している。	介護実習を振り返り、介護実習に おける課題の解決を目指して自 ら考え、適切に判断することがで きる。介護実習の目的や介護従事 者としての役割を理解している。	介護現場に対して関心を持ち、意 欲的に実習準備に取り組むと共 に、実習後の課題解決に積極的に 取り組もうとする態度を身につけ ている。					
評 価 方 法	目標を踏まえ、介護実習に取り組むために「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」について日々の授業、レポートの状況をもとに評価を行う。また、「介護実習」の授業と連携し指導者のコメント、介護日誌等をもとに総合的に判断し評価する。							
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い					
1 学期	介護実習 ・介護実習の意義を学習する。 ・介護実習における事前学習を行う。		・介護実習の意義、目的を学ぶ。 ・介護実習における諸注意を確認する。 ・介護実習で学ぶべきこと、また課題の設定について学ぶ。					
2 学期	介護実習 ・介護実習における事後学習を行う。 事例研究 ・実習事例について学習を行う。		・自己の課題について解決に向けて取り組みを行う。 ・実習事例を踏まえてグループ討議を行う。					
3 学期	介護実習 ・介護実習についての振り返りを行う。 介護実習報告会 ・介護実習の実習報告会を開催する。		・介護実習全体を振り返り、自己の課題を見つける。 ・介護実習報告会の資料を作成する等、実習報告会の開催に向けて準備する。					
学 習 上 の 留 意 点	・介護実習および介護過程の授業と連動しています。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】福祉(生活福祉コース)・介護総合演習		単位数	3	単位	履修年次	3	年
目 標	・小学生への防犯教室などの学習を通して、子どもに関する専門的な知識と技術を身につける。 ・主体的に取り組む態度を身につける。 ・課題を明確にし、自発的・創造的に解決する能力を身につける。							
使 用 教 材	なし							
評価の観点 ・評価規準	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	小学生への防犯教室を通して、子ども達に伝える技術を身につけている。 子どもに関する専門的な知識と技術を身につけている。		課題の解決を目指して自分の考えを持ち、適切に判断する能力を身につけている。 自分の考えや意見を的確に表現することができる。		子どもに関心を持ち、知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組んでいる。 子どもに関する情報を適切に収集、処理し活用する実践的な態度を身につけている。			
評 価 方 法	目標を踏まえ、「主体的に学習に取り組む態度」・「知識・技術」・「思考・判断・表現」を日々の授業を中心に評価を行う。具体的には、授業の態度や発表、レポートなどの内容を踏まえ、総合的に評価を行う。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	・防犯教室の構成、台本作成、練習 ・レクリエーションの作成、練習			・防犯教室やレクリエーションを通して、特に子どもに対する表現方法や身につける。 ・より良い内容にするために自ら課題を見つけ、解決の道筋を考える力を身につける。 ・レクリエーション指導案や手遊び指導案を作成し、発表を通して専門的な知識と技術を身につける。				
2 学期	・レクリエーションの練習 ・防犯教室の実践 ・レクリエーションの実践 ・防犯教室の振り返り			・防犯教室やレクリエーション活動を通して、子どもに柔軟に対応できる力を養う。 ・自分の考えをまとめ、発表できる力を身につける。				
3 学期	・防犯教室のまとめ ・保育園や幼稚園用の展示物の作成			・防犯教室の反省を通して、新たな課題や改善点を見いだす力を身につける。 ・展示物を作成し、他者へ伝えるための表現力を身につける。				
学 習 上 の 留 意 点	・小学生への防犯教室の実践が中心の授業です。指定のシューズが必要です。 ・メンバー同士で協力し合える関係作りをしていきましょう。							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(介護福祉コース)・生活支援技術		単位数	5 単位	履修年次	3 年
目 標	・ 医療的ケアは医行為であることを理解する。 ・ 対象者の尊厳を守り、自立を助ける支援ができるよう知識を身につける。 ・ 介護従事者として、医療的ケアを必要とする対象者に安全で的確な喀痰吸引、経管栄養を実施できるための知識、技術を身につける。 ・ 医療チームの一員として、他職種と連携することの大切さを知る。 ・ 利用者の自立の支援を目的とする介護の役割を理解するとともに、基礎的な介護の知識を身に付ける。					
使 用 教 材	【副読本】医療的ケア（中央法規出版） 生活支援技術（実教出版）					
評価の観点 ・ 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	人体の解剖学的、生理学的機能についての知識を身につけ、その意識や役割を理解している。 介護を必要としている人の自立に向けた生活支援技術を理解している。	介護従事者として医療的ケアの必要性について考えるとともに、対象者の気持ちに寄り添ったケアとは何かを考える。医療的ケアを実施する上でのポイントや留意点を自分の言葉で表現することができる。 自立に向けた生活支援技術とは何か考えて行動することができる。	医療的ケアについて関心を持ち意欲的に学ぶ姿勢がみられる。 介護に対して関心を持ち、より良い介護を目指して意欲的に取り組んでいる。			
評 価 方 法	「主体的に取り組む態度」と「思考力・判断力・表現力」については日々の授業を中心に具体的には、授業態度やワークの取り組み状況、提出物にて評価する。「知識・技術」については、試験を元に、具体的には、実技テスト、筆記テスト、小テストにて判断する。					
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			
1 学期	・ 医療的ケア実施の基礎 医療的ケア 安全な療養生活 清潔保持と感染予防 健康状態の把握		・ 医療的ケアとはどういったものか、また介護福祉士が医療的ケアを実施できるようになった背景について知る。 ・ 医療的ケアを安全に実施するための基礎的な知識を身につける。 ・ 医療の倫理や医療的ケアに関する法律や介護従事者の役割について知る。 ・ 健康状態の把握方法、感染についての知識を身につける。 ・ 心肺蘇生の手順を学び、実践する。 ・ 口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部の喀痰吸引に関する知識、実施手順、留意点について学ぶ。			
2 学期	・ 私たちの暮らしと生活支援		・ 専門的な知識を深め、定着をはかる。			
3 学期	・ 演習（心肺蘇生法） ・ 喀痰吸引 基礎的知識 実施手順 ・ 経管栄養 基礎的知識 実施手順 ・ 自立に向けた生活支援技術 ・ 演習（喀痰吸引・経管栄養）		・ 胃ろう、腸ろう、経鼻経管栄養に関する知識、実施手順、留意点について学ぶ。 ・ 安全で的確な喀痰吸引、経管栄養のケアを実施できるよう技術を習得する。 ・ 専門的な知識を深め、定着をはかる。 ・ さまざまな介護場面の中で、利用者の立場を重視した適切かつ安全な介護技術について理解する。 ・ 国家試験対策			
	学習上の留意点		・ 医療分野で難易度も高いと思いますが、分からない点や疑問点は積極的に質問してください。 ・ 定期的に小テストを実施しますので、復習をしっかりと行いましょう。 ・ 後期では、喀痰吸引と経管栄養の演習を行うため、指定の実習服が必要です。 ・ 講義形式の授業です。ノートやプリントをしっかりと記入して理解を深めましょう			

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	家庭・保育実践		単位数	3 単位	履修年次	3 年
目 標	子どもの発達を促す技術を身に付けるとともに、子どもの健やかな発達を促すための保育について考え、よりよい保育を創造し地域の保育や子育て支援に寄与できる資質・能力を育成する					
使 用 教 材	【教科書】保育実践（実教出版）					
評価の観点・評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	子どもの表現活動や子育て支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。	保育や子育て支援に関する課題を発見し、子どもを取り巻く環境の変化に対応した保育を担う職業人として、合理的かつ創造的に解決する力を養う。	保育の充実を目指して自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
評 価 方 法	目標を踏まえ、「主体的に学習に取り組む態度」については、日々の授業や校内外での実践活動を中心に評価を行い、「思考・判断・表現」「知識・技術」は、定期考査やレポート、作品を中心に評価を行い、総合的に判断し評価します。					
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			
1 学期	○子どもの表現活動と保育 ・造形表現活動 ・言語表現活動 ・音楽・身体表現活動 ・情報手段などを活用した活動 ◆保育検定2・1級に関する内容 （言語表現技術、造形表現技術、音楽リズム表現、家庭看護技術）		・造形表現活動、言語表現活動、音楽・身体表現活動、情報手段などを活用した活動の意義について理解するとともに、児童文化財の製作活動を通して、効果的な活用方法について考察する。 ◆子育て支援に必要な専門的知識・技術を定着させ、実践的な態度を身に付ける。			
2 学期	○子育て支援と保育 ・子ども・子育ての問題 ・子育て支援のための各種施設 ・子育て支援		・子ども、子育てに関する今日的課題を整理し、解決しようとする主体的な態度を身に付ける。 ・子育て支援のための各種施設や政策について、その種類や目的を理解し、有効な活用方法について考察する。			
3 学期	◇保育の活動計画と実習 ・保育の活動計画 ・保育実習		・保育の活動計画を立て、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組む。 ・保育実習を通して課題を発見し、その解決に向けて考察する。 ・これまでにて習得した保育に関するさまざまな知識や技術を生かして、総合的に保育現場で活用できるようになる。			
学 習 上 の 留 意 点	保育実習については、学校の年間行事計画をふまえて実施されるため、時期が変更になることがあります。					

